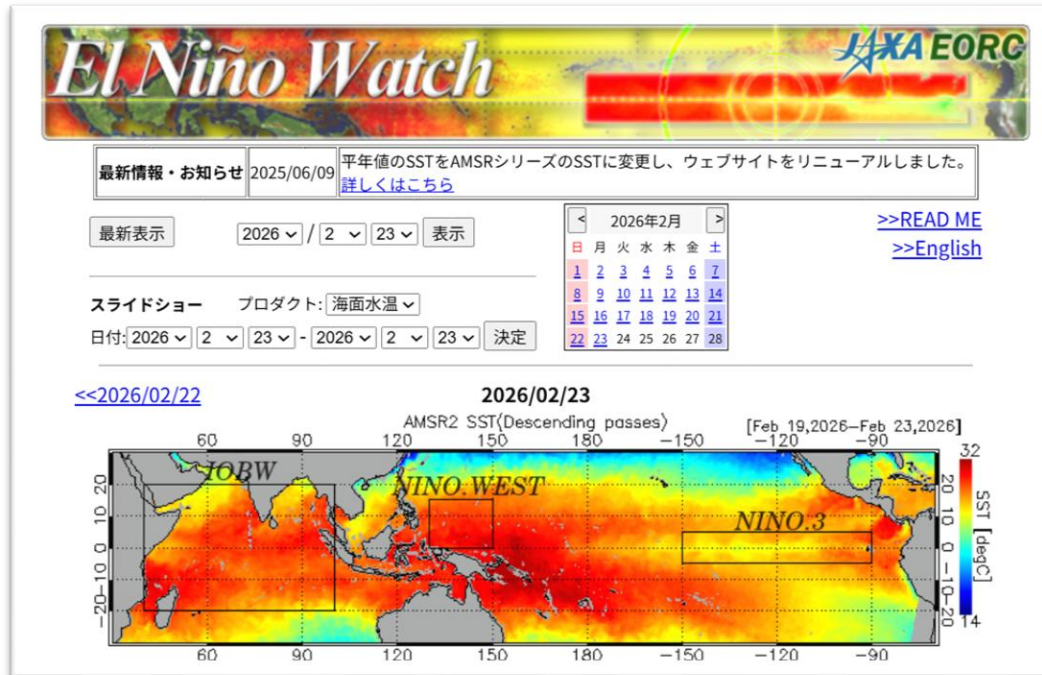


# El Nino Watch (エルニーニョウォッチ) 操作ガイド



El Nino Watch (エルニーニョウォッチ) は水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W)等、AMSRシリーズ(※)が観測した海面水温のデータを用いて、世界の広い範囲に異常気象をもたらすとされているエルニーニョ現象やラニーニャ現象の発生を視覚的に監視することができるサイトです。

El Nino WatchのURLはこちらです  
[https://www.eorc.jaxa.jp/AMSR/el\\_nino/index.html](https://www.eorc.jaxa.jp/AMSR/el_nino/index.html)

画像を利用する際は「研究データ等の利用条件」をご確認ください  
<https://earth.jaxa.jp/ja/data/policy/>

※AMSRシリーズ：高性能マイクロ波放射計 (AMSR) を搭載した衛星  
[https://www.eorc.jaxa.jp/AMSR/satellite/index\\_ja.html](https://www.eorc.jaxa.jp/AMSR/satellite/index_ja.html)

# El Nino Watch (エルニーニョウォッチ) 操作ガイド

最新表示 2026 / 2 / 23 表示

スライドショー プロダクト: 海面水温

日付: 2026 / 2 / 23 - 2026 / 2 / 23 決定

2026年2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

>>READ ME  
>>English

<<2026/02/22 2026/02/23

AMSR2 SST(Descending passes) [Feb 19,2026-Feb 23,2026]

海面水温画像

海面水温偏差画像

それぞれクリックすると大きな画像が表示されます

[最新表示] やカレンダーで日付指定した  
[海面水温画像]、[海面水温偏差画像] が表示されます。  
※ [海面水温画像]、[海面水温偏差画像] についてはP4、5をご覧ください

# El Nino Watch (エルニーニョウォッチ) 操作ガイド

最新表示 2014 / 2 / 2 表示

スライドショー プロダクト: 両方  
日付: 2015 / 1 / 1 - 2016 / 1 / 1 決定

2014年2月  
日 月 火 水 木 金 土  
1  
2 3 4 5 6 7 8  
9 10 11 12 13 14 15  
16 17 18 19 20 21 22  
23 24 25 26 27 28

[スタート] をクリックすると、スライドショーが始まります

スタート ストップ スライド間隔(速さ): High 前 後  
スライド番号: 1/365 観測日: 2015/01/01

海面水温画像

海面水温偏差画像

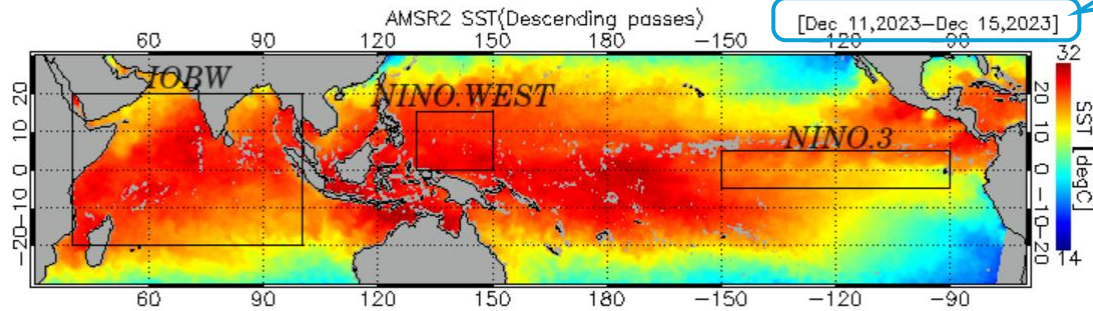
「スライドショー」の項目で期間を指定すると、[プロダクト]で指定した [海面水温画像]、[海面水温偏差画像] 又は両方の画像をスライドショー形式で表示させることができます。

※動画として保存することはできません

※ [海面水温画像]、[海面水温偏差画像] についてはP4、5をご覧ください

# El Nino Watch (エルニーニョウォッチ) 操作ガイド

## 海面水温画像



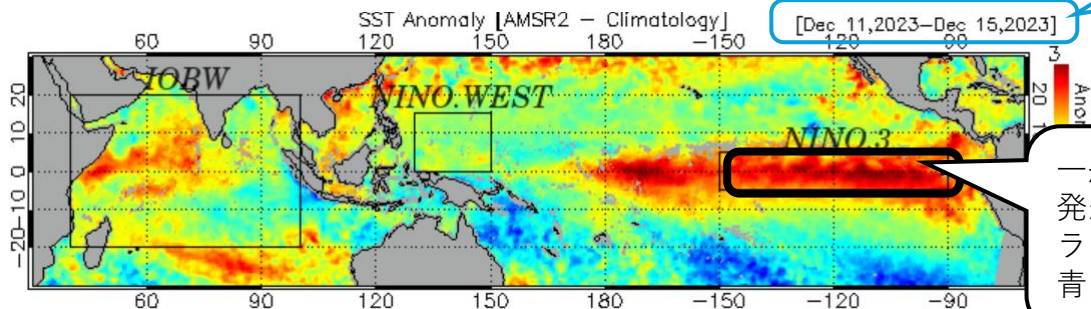
観測期間

海面水温画像は表示の日付を含む前5日間の平均の海面水温分布を表しており、水温が高いほど赤く、低いほど青く表示されています。灰色の部分は陸域もしくは降水により水温の推定ができなかった領域です。

画像右上に掲載してある日付は、観測期間を表しています。この画像例は、2023年12月15日を指定した時に表示される画像で、2023年12月11日から12月15日までの5日平均画像になります。画像中に四角で囲まれている範囲はエルニーニョ監視海域(NINO.3)、西太平洋熱帯域(NINO.WEST)、インド洋熱帯域(IOBW)という3つの監視海域を表しており、画面下部でこの監視海域の平均海面水温が時系列グラフで表示されています。

# El Nino Watch (エルニーニョウォッチ) 操作ガイド

## 海面水温偏差画像



一般的にエルニーニョ現象発生期間は赤く表示され、ラニーニャ現象発生期間は青く表示されます

海面水温偏差とは平年値からの差で以下の式により計算しています。  
海面水温偏差 = 海面水温 - 平年値 (気候値)

現在平年値 (気候値) の計算には下記の期間のデータを使用しています。

2002/10/1~2011/9/30(AMSR-E), 2012/10/1~2023/9/30(AMSR2)の平均値

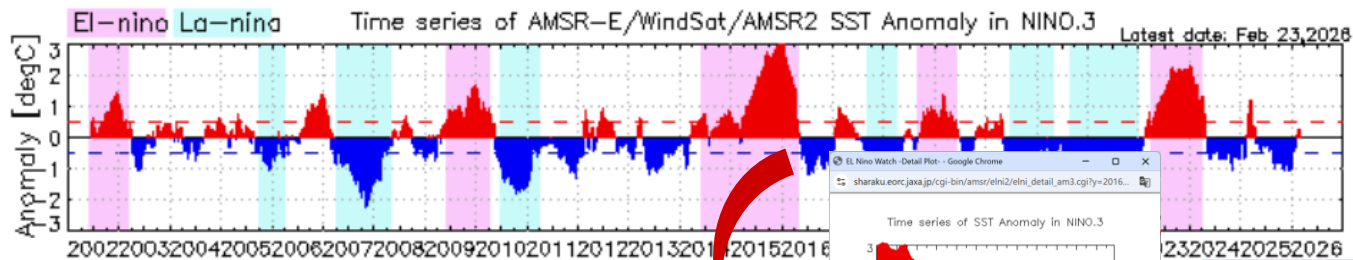
この偏差画像では-3°C~+3°Cを青~赤に色づけしており、平年より海面水温が高いほどより赤く、低いほどより青く表示されます。この画像例では、エルニーニョ監視海域 (NINO.3) において海面水温が平年より高くなっていることが分かります。

## 「偏差」とは

個々のデータ値が平均値からどれだけ離れているかを示す「平均値との差」のことで、平均より大きければ正 (+)、小さければ負 (-) の値となります。

# El Nino Watch (エルニーニョウォッチ) 操作ガイド

## 海面水温偏差時系列



時系列の画像の上をクリックすると、クリックした日付付近のグラフの拡大画像が表示されます

[Prev.] [Next] をクリックすると、前後の期間のグラフを表示することができます

海面水温偏差時系列グラフは、海面水温偏差画像から算出した各監視海域における海面水温偏差の平均の時系列を表しています。海面水温偏差が正（+、海面水温が平年より高い）の場合は赤色、負（-、海面水温が平年より低い）の場合は青色で表示されます。

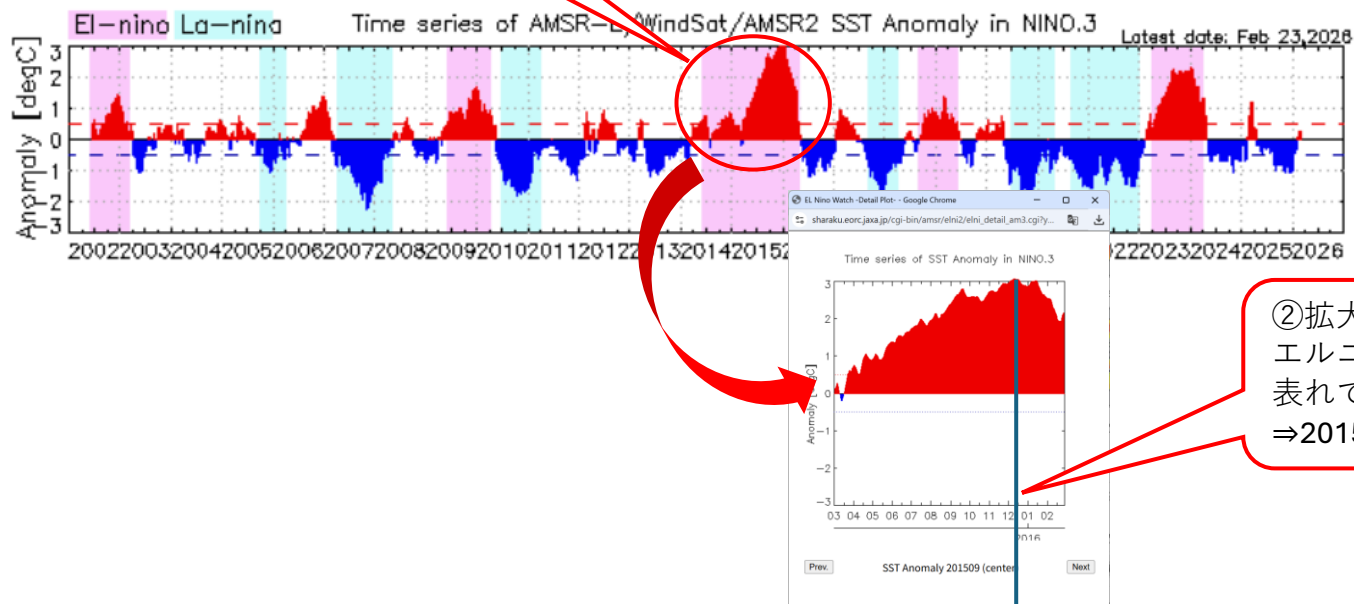
グラフ中の背景の色は、気象庁発表のエルニーニョ現象（ピンク）とラニーニャ現象（水色）の発生期間を表しています。気象庁ではエルニーニョ監視海域（NINO.3）の海面水温と基準値（月別に前年までの30年間の海面水温を平均した値）との差の5ヶ月移動平均値が半年以上連続して、 $0.5^{\circ}\text{C}$ 以上高くなることを「エルニーニョ現象」、 $0.5^{\circ}\text{C}$ 以上低くなることを「ラニーニャ現象」と定義しています。

# El Nino Watch (エルニーニョウォッチ) 操作ガイド

<一緒にやってみましょう！>

観測されている期間で、エルニーニョ現象が特に表れている時期の海面水温画像と海面水温偏差画像を見てみましょう。

①「海面水温偏差時系列」のグラフで一番高い部分を  
確認し、該当部分の  
グラフを拡大します



②拡大されたグラフをみて、  
エルニーニョ現象が特に  
表れている時期を確認します  
⇒2015年12月15日頃

# El Nino Watch (エルニーニョウォッチ) 操作ガイド

③ ②で確認した日付  
(2015年12月15日)を指定して、  
[表示]をクリックします

2015 / 12 / 15 表示

2015年12月							
日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31			

[>>READ ME](#)

[>>English](#)

スライドショー プロダクト: 海面水温

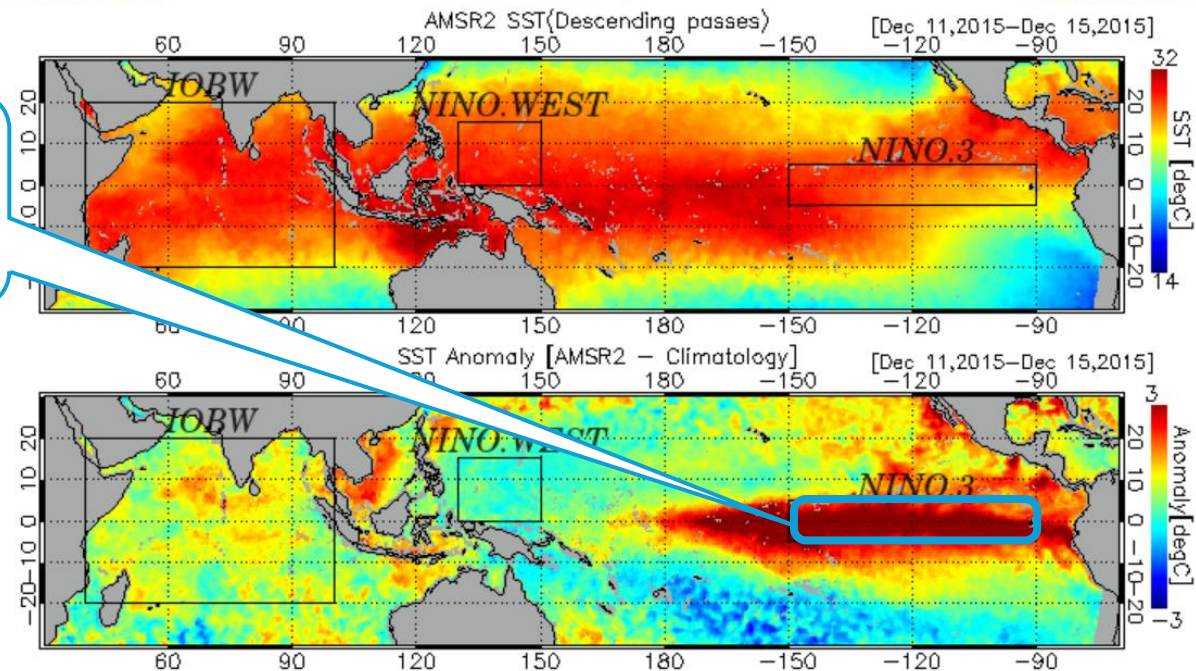
日付: 2015 / 12 / 15 - 2015 / 12 / 15 決定

[<<2015/12/14](#)

2015/12/15

[2015/12/16>>](#)

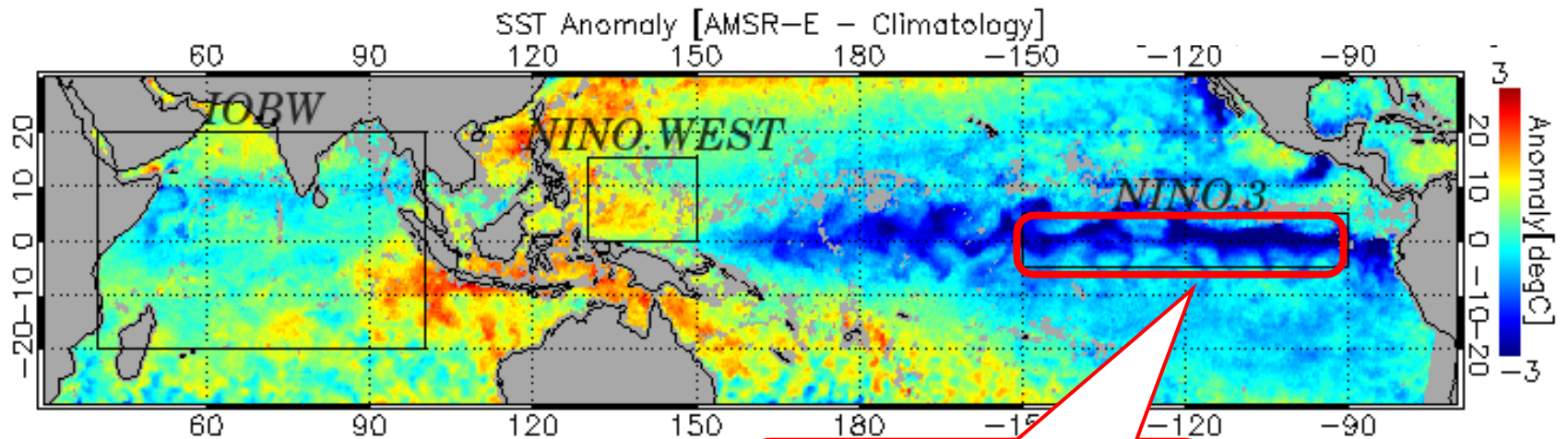
「海面水温偏差画像」の  
エルニーニョ監視海域(NINO.3)  
が特に赤くなっている  
ことがわかります



# El Nino Watch (エルニーニョウォッチ) 操作ガイド

<自分でやってみましょう！>

観測されている期間で、ラニーニャ現象が表れている時期の海面水温画像と海面水温偏差画像を見てみましょう。



「海面水温偏差画像」のエルニーニョ監視海域(NINO.3)が青くなっていることを確認しましょう